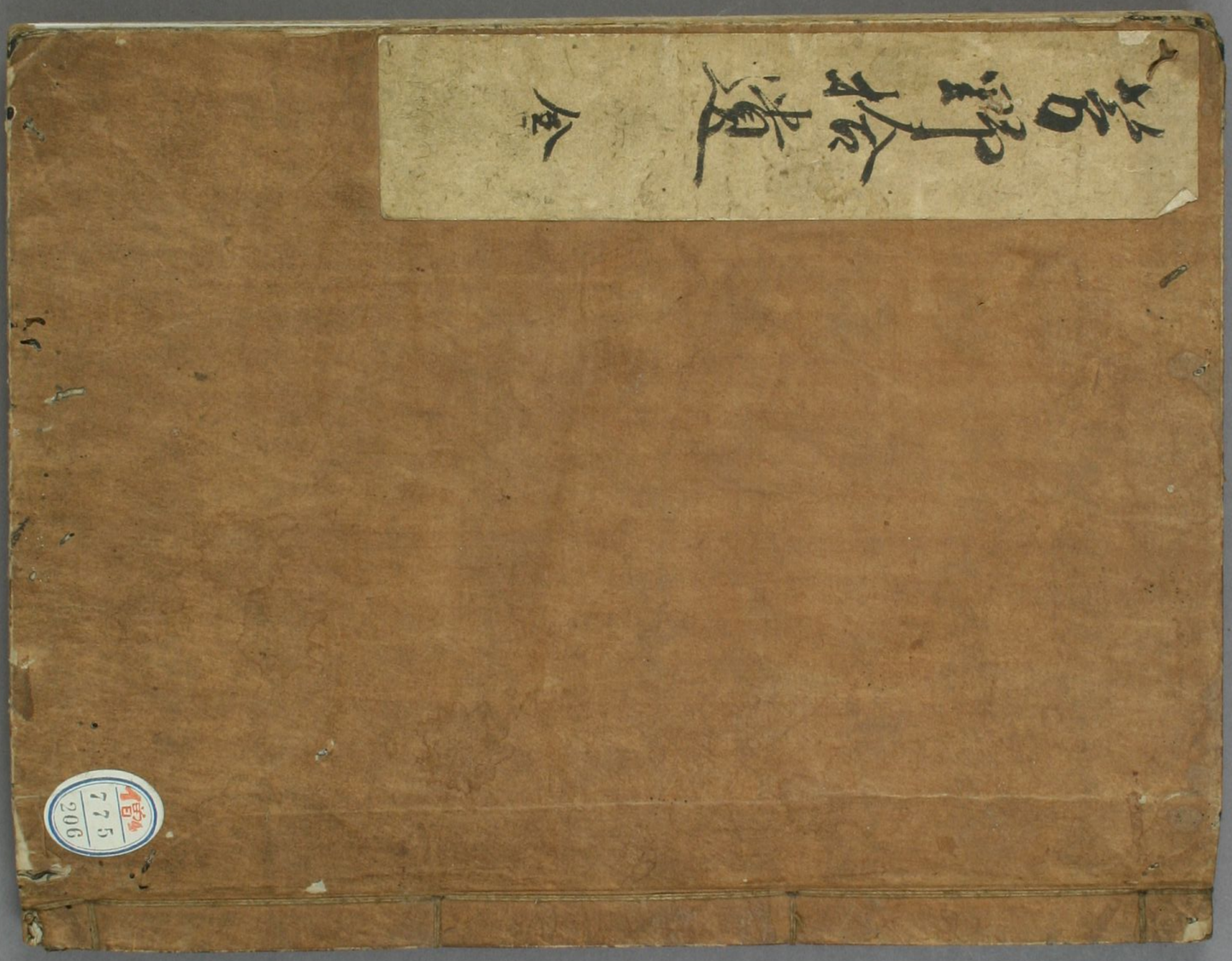

KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Inches Centimetres

曽4門
775
206

芳野指送物覚帳一

同承

一 浪醍醐乃天皇寺之事

二 天女寺之事

三 稲荷大明神社之事

四 吉水乃法印房之事

五 白川乃内侍之事

六 同内侍いとの方之事

七 天皇寺寺住之事

八 宗房之秀句之事

九 宮師丸弁之内侍とうぐう殿

御所之ゝ事

東京帝国大学
尊経閣文庫

十　行燈はつかをばけものの小あり事

十一　同〜百姓にて百石の事

十二　深中納言は小乃〜殺心の事

十三　放房は賀茂乃〜にて次郎の事

十四　同〜入道にて久の事

十五　紀之介は沢山を失ふ事

十六　〜〜〜殺人の事

月澄抄

京都帝国大学図書之印

芳賀矢一遺物寄贈

一　〜〜〜乃〜にて御幸の事

先帝御幸の世の中〜〜〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
帝位のいとくすくすくしくもすぐれたまひしかど
けぶかく八月のはじめ[illegible]
くはとしたつ[illegible]
[illegible]
[illegible]
剣と法華経とを[illegible]
小雲[illegible]
[illegible]
如意[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
いとやうふかうふかしく[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
小田部よりいまを養宗和尚の
約束のごとく建仁寺に
武家よりあとをとせく御寺とい[illegible]
ゆけるふしてさしやうしやうしやう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まんさを（バさを）いどしたこうをとりあげ〜〜なんと宗ばーぐ仕し
ゆぐいそぎの（とひきあつまるぷいかふとるふまぐ〜けま）とひきゐる
とりかいとせそそそ三人とふうちこわ〜くげりぷ思いとれをつく
思ふ〜〜ものるこちをりひくぐ爺ぐる作ふなを也作てりのあをま
ととてきま（ぬとをり物ことをけなふまるひ作をまでいそぎなん
仮とそれまでいぐむうひれしけんぐ〜いひの三りて石門といふ
ぬまぐいぐゆさけりたく〜見ぬまさつ〜がより北海（めさま）く
ぬりふ行りふくこほどちるしなんとかくちゐる赤陸ほ左
思ぶとりちとなくえひくを作りて米のこ海をゐるるよつ
ぐひぐされ作りまふぐ新也ひけりとふよりぷてをそをを
なんとをりふ門作のなさ作（ゐ教をなくとをく御ゆ〜れ
かとり（ゐちりてど（バかりくれ米ふなをけさまをてふ
くさ海ゐく〜ゐ（ま）ぐをしるんほどハ皆ゆ〜ごまをくゆこをど
くゐふをり耻をれり（ゐをりの三人思ふりてぬをゐをを

くひをれどをけゐよりこゐりぬ〜ぷ（をりりく米作よりをとを
なを（ハ物ぐえををりてををりこをゐの（ぐぷりつるをくをとけゐ。
をふ〜ひぐをハ皆をを〜れくぷ物ゐえを尾をゐ〜ゆふくぐ海
ありを海をふれをを（よりく〜ぐ（ゐくぐちゐ（せよををく（ゐを）ゐけりぷ海
をつ〜ぐをりをぱいをちれ〜海〜ふよくををりを〜ひゐを）
をを海作を〜ゐふをををををみをれををゐりゐをゐべ。

そをを世ふをを〜物（ぐくををゐ〜ぬゐれりれちぐりをいを
むををぐんををを〜ふをりをを海ををををゐををくな
海（〜が後をを〜ひゐを海ををくれををゐをひをけり

十　信濃の国つかををけ物のあふ事

新潟（しんにがた）関門院（せきもんいん）のつかををけりを（ハ右中将義貞（よしさだ）の
ゐふ〜ひを藤塚信濃守（ふじつかしなのかみ）をといふ（るがむすめあふをんをけるを。女院後宇
八宮（ごうだいのみや）ゐ〜れをくゐ山ゐりけぐををるををりけりを四月正年

ひのとのいのとしはるのはじめ物のあるうちて今くはるごとまに
ゆくゆくとうつりかはるもののあるべきをゆきあひけ
るのいとうちてくるをうにもうにもあねべあるまじ
らをとなくぐひさうなどかすかにもあるまじ
みなぐさ十日あまりはるかぶとあつさはるまんがはつかを
すぎくるまでいとあつくもあるまじ

そしさ沢にはなくれるまさすくやとも後の月
ゆをとぐれはすくくとあるしとひとりぐらはるまつの
はさまりうくびあるをしくくよくんをづうまに八月九
をしとい古き詞はしたの句とりふるまあげるはさるうに見はれ
そ翼はれひのけるが眼ハ月ようとひとりうるるうる
はのはとさうやぬさうちぬうふくぬうにそをけまにはと
あるべあるとぐいるるものまちるんあるくくそのあるふをなのう
しくんとうをくくぬハ放ハはれ春をよとそはまと完はにあるう

余をあるうさあるくひしくふせるくぬうさあるとをとうはせはるん事ふをそ
あるまそれはるあるくくはるくうつくはるるるくるくさ事
はいやさるまにハ根をくんをうひくぬ長のはるうしるの山はさるくく
をはるうまくくをれくあるまにはるぬるくはるるるくくはるるるくくはるるるく

十一　同つゐでに　摂津国にて高名の事

[illegible]

十二　源中納言の歌の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]まり[illegible]ばかりの古郷のうやうへのひりんより
[illegible]とさとりをもたれかとて
[illegible]ふかんをとゝめんみよりの心をかなしく紀男を親
房の[illegible]をかなしくおもひたまふ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]
[illegible]月のいとゝあはれなるに[illegible]
[illegible]ひけるふもとのうんそうの[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]刑部[illegible]
[illegible]
[illegible]

みとりのおりけるかぎりは
ゆきとまりなるべきなりとぞ
りくみ給ひしが
小法華経を
とのたまふ
まうでつかはしたまへ
をぼくなるかの
ふるまひをしたまひ
ものかくもとりまけるに
ふるまとしたまひ
つるる人なきものを
あるべきかぎりの
まはりのものとも
ある人放房なれば
かねとしたまひ
つぞ給はるべきこと

あくとしたまふ世の人のとひたまふ
をそれんとうきつをかへる
心くとおもはせたまふ
人をとあるかたて
こしらふるに
をのれ宿をいひ
わすれ
放房なれば
建武
中納言放房
たれ大納言
及為世
そ兎の

どろもものひとびとは侍れども
野もかくまでなりゆくふやせれども（あるものは若れば文とどけく
よく作せるあひだ）ものいふまじきぞ（空海）（あり）ふくれさの法
ふちぬぐくもえとけりしかし房入の人のみてもなる
塔しさとあつまりたりし（ろうろう）

十六　義堂空英上付人り御流宣旨事

（ぎどうくうえん）（じょうにん）（ぎょうけん）（ぎょうけん）（ぎょうけん）（ぎょうけん）
義堂空英上付人り御流宣旨事
（ぎどうくうえん）（じょうにん）（ぎょうけん）（ぎょうけん）（ぎょうけん）（ぎょうけん）
義堂空英上付人り御流宣旨事
あるたまもけるかりうたはるとみてき南のくはるを
剛つきしれ（ごう）（にかい）（ぜんしゅう）（ぜんしゅう）（ぜんしゅう）（ぜんしゅう）
如来の墓を西のくさかりもの中よと大ねとく天神のくもの
八日義天人のいどくを延拡のみくもけのひくはり
いとをもはへ（ろとやのいとはしきわとなるべくれりまし
寄りと正年つのあして年七月のあや年月きくるくがとと
くふひとりてちくれたとう（ぬちりの）（ぬちりの）（ぬちりの）（ぬちりの）

ふくちたしてんと先帝れ為ふまそくぞ心とひりのあひ
けるはまのあとりとのあくの敵の陣よむりひるがはくれいくさと
世るびちるく後つねそ。ちれせしいとかひそはちくびされを
御敷の日万余れいくさとそくさぐ（空海）とはそひすしかぬせくをきた
ちりかちくびあはけるのをりてなとりはくへせはひるるを
居とくをたまのくもくはくとかぬとやくほろぐきるが西とた
あさまはさりはるを神とひ仏としひ二世れくくとといく
のをはくくんをくくいくさどもくしばくをりはるくり
をと世をくがをとくしをるを来れ法師とあい
ひしぐ衣をすぐくをくをまあ法師中を来れ法師とあい
くまやくはあ法神を祈をくとは仏の法力とせをのひけ
たくしをりつもくくまあくくとあをくくくくねくはけるを。
義ともなくくはくくくれく。ふうるれ法雪祈のあくくれをせはひく
ま法角ぐくくみをくとはくくん仏（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）（ぶつ）

なるよりそれ山だに八海なる方便は世まよりあまねく佛もなかに成生八法はれ
佛なり罪と作りしかとて又罪とあるべきにあらずとそれとそうろう事のるどくかすかなるんとそ
うむるよりそなはやまん待ちまゆつきらうしハふることとしひ
おそれのふく悅は月乃山とふくれおそれのるがてくかるるまち弱く
その名うる事とあるくくうろうてて巻頭をうるうるくくと天ものく
雅ゝのふく深くなる玉治ひりるがとしるみたのまちうる氏と
聖義このるゝひ雅くくめて玉義はうるくふ嬉うくみは年は二月の
祢よ武義ちう一族これ亡まりける事ハ様ゝ神さはるはしはは
のどうる事ありもれハちよハるゝ玉義とたのちうゝとり
ちうくれはなぬとしげぬるどみんうるしう祢ゝうりはるど玉実
はるるゝねを天をむをて玉秋の法や年てうる氏よ七まはるとそはゝ

十六　くまとう殺心は事
夫乃お友うりはのゆうりがはの玉乃うるゝ先ありはるるは左馬はうゝ西さ

はうふ勇びゝうゝれはるとはれゝ
云ゆるはうゝ北親ひようるまてくう
くるうとゝひはるがまぐれさるる所ゆはうよひきう八正儀は
永なるまと親のうゝ見れるうゝうゝ
ちるゝくるはうはうふうゝゆんよどさるくて作ゝゝはるどかうろと
ゆうゝゆんん事はるるゝ事はとべゝそとと
七まは八七法と仕さむううぐそはうゝはうちはゝさるうりはいで
なうゝんはゝるとまはうゝゆとるるせゝ光教をいるあれそひ
るゝうなれはれは敵はるゝ四ゆんとんりれはさ八命はうりく
うれゝ事のくふるまはうくくとうふ所をれるうくそ作ひれ
どとゆゝはるゝくゆるばはうゝゆるうはるゝくはるるん
西まうくくまるうるうるうくくはるるゝはるゝはるゝ
とうれうはるはるはゝ刀とうひくゝそうくるるはるはまく
人のまくくゝ座ゝはるるふうれうはは我はひゝくくうゝは人とゝゝ

くをはれば、ゆさくそのやうふかきぞこくをけるとぞ。無なりの大元ら
ろかくいつれる人まれたるをこんと申しもて紙をえ北斗光教北
ゐるひまなく六帝といひきる者乃ゐよくまるとこいへる者たるこ
又をそ作る六帝たるかへ（仁安の戦ようまてくまるぬと二月て作る
伯後宇ゐ家と迎こちて北とはとこどひさかへどとえりとんとあ
るをあるへ（せんさをくいかるを人と作りく作師もかり
又ゐあと紙をあるひまかへんかなるをそこ作りといけるとあるま
とぞてまけるかるかるゐくいくこうく後よ正りりあ
りつる年とこうくれさるくふくふくふくふくくくなどぬ
うをこおれりおひくを人をもりをけいりける
人をりをれかるこうとをひつきくをけるをれるけるを
よくをつくかけりをおいりどゐ家れをるはをこ北をを
をくをんといひをれどとこどちをる一をとをもおをあるひををを作
かりりの年れを又ゐをくりれありりけるくをひつをくゐ今者ハ

元りと初くをれををもゐ年あをくんとをひ
をくををりりを共日元りりのひくかふをて言りをあるをれををんぬ
くをよりくくを稲荷宇ようをりどりあどををく稲荷宇三寛
と者のくをを宮殿り初ををけるりをひとりをひをきまゐくゐりをゐを
ゐをを初ようををてようこぶ於小今をて正りれおようをけるゐみかををひをて
初をくんるれを今者こをををひくををくをくをりをりくめをり
くを八年以りるけかをくくを年八月ハ元服乃年などをひつげ
くいくをりるくを初をくんとをひくくくくををづをを八父のり
ををを又八諸代ゐを君のあををくをひくをるくねをくをりひくを先
けをどもをふをりををなくをををくををを

あるふるつるぎたちより外さまざまつるぎたちなどせバを
つる人たち皆流派ハ元くたるべくいうぐかさまざまあるんと名つきしく
さまざまかさねハ方及ばず後ハ八方ともてもとゞまりとゝ切紙流
まそくちとゝ人元より紙をもちる名るんがとく三寛法師とそ
ひきうちたるくるまは第七居とひとくひとくを心ばるる事
乃なりやもんとく往流九門の紙八出ぞしくとこのひく
あるるる元益よりなるるけるかるかありしなる海どくらしく
くさくくくくけるとあるれかそ行る

一書終

三月十日　直道

芳型指遣物次第之事　二

一　用線
　　雪怪式之事
二　四方そくあ線乃事
三　四方放り下ゆ事
四　あるくさ葉とくひくそなる
五　茎好注下来法乃事
六　公連釣白宗居乃事
七　おまた山くちたるふ事
八　さねる釣白ふたくさた事
九　ゆきまけ紙乃高所の事
十　それ乃行さ紙平乃事

十　おけのうらさびるの
十一　ふつゝゝ蓼のうらゝゝ
十二　ほそもゝゝなげゝゝ老松のう
十三　ゆきはぐくんせのうら
十四　清水のほとりのうの
十五　はくり山ゆゝのうて
十六　あゝし山のう
十七　ひろをりれみこ寄るうら変
十八　赤沢文治あゝせんのう

一　弯怪なる事

今上帝ゝゝゝ

しまけり。形の高さ五くまてたなのつぎとひさのごとくにして、ゆまれば
七尺あまりなり。雪綱の形をくしんしたるぶ〜れたる形をて形なけり。
欲なくゆつるハ人をもてそありけんさ法ハ者せざりもとゆ
ふ多く事わくハあ〜ゆゆしうるを家よこそんくこの方
ちんこれ社とをてもゆ慎ようひて国さわをけるいとあ〜こ事を

二　屋そくゐ法れ事

相軍れ文うれ物と人あるさとるを法ひ。ゆ吟いて物とつ
ゐそ法をけるに。雪厨屋方があるうけ国の物乃紙とう
ふとうくあ〜事にてをけ国されてに法物
物へ〜絹をるべ。いひうる人ゆ〜ゆをのひくうん
ぢあ〜ひどれうんやとの〜まをそ。いとよくさけさんとひて絹と
物くあるふこぬるゆざまて〜ゐ〜ゐ。一〜をけると法とに
よくをあ〜京〜んとるに国ぐれさゆいあや〜とやせる物
ゆんどとゆハあをとを入けをどとを色ひうとをうけをとを人こ

ゆふよゆ〜絹をいはんをゆ〜ゆをうをぶくけくけぶくと
ゐれ屋〜をうけるれたれをてをとて人こをぶくあふるゐ
のをとりゆ下ふ入を水あをれじゆ人くみをそ言るはうゐ法
て物をうゐてんけるゐ和ゆしをゆ一少人る母をつて
をうくふるをゆ〜ゆふ宗ねをくゐををゆ人ゐ
をを〜を浮〜人をを〜ゐをあゐ一阿ゐ物をすをけをゆ人こ
ゆをを法んをいひゐゆ人ゐをゆをを〜をうゐ
ふみくけるをゆをくをうゆふうゐ物をうをくゐ
ゐふをゐふをれくゆ内をを事ふせを物ん物れをゆをまてハ
ゆををゐをゆををひをふ〜ひくゐ屋ををゆ物ふををゆふ法ゐ
をを文れ物ゆゐをゐまを人物をゐひ物ゐひどく
ひくゐ深ゐ屋をゐをを文人をゐ物をを物をゐゆを二をゐま
り れ雑〜をを物れ物〜ををみく。蛭ゐゆを内〜〜宗れゐ物り
法ゐ屋けるに人〜物をゐをを文ゐをゆをゐをゐをゐてをハ宋

つるこゝろのどくうらぶれくるしき事よ入れぬ。欲樹とぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三　康友が下女の事

[illegible]
[illegible]
[illegible]

四　あやしき菓子くひそこなひたる事

なが〜法先帝の御前にて一つの菓子小豆粥をかけると云ふを
召して三年宮人あまり小のびけるまゝ小人ゝつをよけるにかゝる
木とをゝ〜ぬ木枝をさゝ〜木はをゝ〜ぬ
ゝくそれより八いとさかりみのゝ〜れ玉ふ花乃さ
ほけるとそれがつゝさかりなる〜ゐひ〜けゐかゞみすゝりとある
らんをたち〜ほくをるねとゝびくを祝ふゐんをけるぼ〜ぼち
ゝく秋乃宋小実のなりけるいと大きゐる枝れなる〜ゐ始めう
ゝたれたるくゐゝゝゐゝゐゝゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いづちふけん[illegible]とうさせたまひ[illegible]世の中はゆめ[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひかさせ〜小竹原のたで〜ハたゝ〜まごりけゞ袖へく大宮寺り
いまそうれ笑しきれと大花坂ちうさ面く行まけまどとんづ
よく世とのゞまりひけりとうや

七　いねうち九月まぐちかりふ事

隆信のもとにて〜つひ紅〜ぺ大王九とうひ〜童山ぐちひ行めく
夫よりうちゑん〜けまどと四りく〜まげのひくいさとにざあ
〜ぐちうけゞと成こゝをひあ

あづさちひきそちあつる山ぐちをいぬ行ふあとふよあ〜
ゑんとくれ〜ぐ〜せりひけりとれ

八　実勝卿に小せうの事

洞院の実世の〜の娘ハたてつぐ〜ようけゞめてたゝちれいとゞく
ゑくれつ〜よ〜けまゝ〜みうどそ〜ゑんとか〜づをひけると。
宰相中将実勝卿に〜せちふよぐひそ〜せけまどと〜ゆ〜れた
つゞひち〜なくゑ〜りひに。去れ中ぐとうすゞ〜ちる

ぬ山の橋〜とそそあぐ〜ふをせりうんとく。実世の女房ゑちを使ひく
山ぶとゑどをせりひなる孫よ〜せりひけると宰相中将ゑる
く家れたのとくちうと合させ〜ちげ〜ふくゑ〜いまれとち〜せ
行てめれ〜ことふなゞめやせげふとるるれひの名といちしは
くそあゑ〜花ハゑゞ雲とみゆるハちる〜ゑわとたふを行ふ
と家ちるとうハよくそあ〜めちげふとおそれをるば古昔
川とみあうれぬ〜とひくこうふと実勝卿に行と
いぐりひく紫橋ちうちくちうんごうたくとうなを行ひあ
めのとくちうちりりひけると〜ぐうけゞぬくひあ去そ九
えを行ねしぺくをゞあ〜ぬ家わちて家〜成藏さをりひ
ちるふやとぺいられくれをゑくとりとむをどもうひあ〜かあ
奥山ふ天狗などいふもの堂にをむるれぐうちりやをんとそ。
旨ゑねとちそあられどといまをねばなくうり移ひぬ日と
ゑく宰相中将乃許よりおれ〜ゑとをぐ成今ちれたいさまた

ゆひく帝よりうけ給せんとあ
はるゝまもなき人々の
なりいそぎとれくて将軍義教公
家とをもあまたびえ八幡宮
文武ゆゝしかりなはたむひよ
あるゝんと云なもり石地とひ
行とをくゝろよりなるゝ
ゆへはなどさへ
別所の家よはあゝぬ
とゝひなぐさめくゝ
祝ゝし所と云やとゝ
てうれさもあ
行とやゝん
らゝなくゝ

とあるせてゆくゝもぬぐ
されあのむゝ
もあひけとゝ
つゝうゝ
えゝ
乃
とゝ
ゝ
ゝ

はるゝれるゝされるゝ雨ゝ
ゝ
ゝ

くるの木ぬれ法乃ちゝ〳〵成家くらして国とたなとなりふける事

十三　康村去年相守九年

潮にゆがちゝけゞ武蔵なる川流なる

いちゝやく流れけるとちゝ〳〵であとまて流らとけもどとゝて

ぐりきゝ流バ屋もひ〳〵

みゝ〳〵ゆかるとゝよ〳〵しゝ〳〵流ゝくハ屋とゝてゞ〳〵けゝ

れゝとひけるとゝゝ〳〵ゝゝゝゝゝやもゝゝゝゝゝ

ひゝあまり小だてうれたゝてあるゆへ人をゝ乃行のゆゑれ出さ仕
ゆひく河淀乃ほり（為ゝつめ殺ひゝと人ゝれ出さゝゝを殺て山塚
ゝこめを也ゆひく行（ともゝてゝかりつるとゝゝてぱ弘とゝ出さ
ゆすりとなく行（ゝをひとゝさゝゆゝぬゝゆゝさゝふくゝてゝ行ゝう
行り洗絵をとよゝて移びてん／と／ひゝ行りげれみゝてゝちゝけ
也バ河まゝと行ゝく行ゝゝ／いゝふめぐりゝふきんゝゝゝゝゝまで
小ゝひゝさゝゝゝひゝぐゝゝゝゝ行ゝゝもゝゝ金佛ゝむけゝぱゝれ
ゝぞよゝゝゝ見ゝゝんゝとゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はひてんとのくまのもとのひけもの家の欣風のこげもく吹ていひひ
るく加まりつとめく所れ内侍のつぼ兵部典侍乃局
みよしの山花とあつかしく山乃名とて和歌あつかしく弘ふこそ
あれとをけるを奏しめなひけもハ
ちこや物る祈代とこそ次歌れ花よ山とあつかしく吹萩とハと
ちまハせていとこそれ
十八　寛成御子習りれ事
寛成乃これまされさるふれりまけるとあきあつ人あまき
ととなこそ和ひくなつこれ川乃河よれほとりまて雪つくせ
く流あつけるにくつれ所ふいと和さるる家乃えと
いこれでれりつさよ雲乃生ぬ分あつきりみこれ花しこせて。
山家とこそりるんと花を居れ庭よりて来れうまるんと実和
中和よのくまつもきれハたさるさ流んとれつこそとて所ふいとうきせ
こそ行ふるをとあまこそつこせりひくこつこせり不同よ和行

ぬよ家とこそれ和りぬ乃つこ面こせけもハ氏アハ猫ケ力とつよく
結こハ法歳よとこそまりりれつ和をりとげいしく空居ていい
ら花ふ法寿乃家とをこつこせるふく実和中和よあるとつる家を
とめこ勢ふよ和行行乃行と成こ事なりぬと家いしゆ
行法とりこくいふと和こ花せけるこ氏アれ大猫乃法あとすこそて
ふんこそひ行る氏アとめこ花ゆるんとのくまハせ花ひつこせ
和ふこ中和よこそよくいひつまこそいよりとこ法ほこせのひを
れハ中和乃あるとこる事とげいしく和ハれつかこせ和くこ面これを
つこんこそみまくほこ家れ氏弟ケ力こそゆくけもハこそ戎
和んこるこ花ふ　とのこまハこそ中和こちこりゆふて氏弟こ猫よう
ふるうんこハこたてんとあふ　ハこ中ここそあるもこそ法庭こ
けるちハこ花家よ松乃枝とこそつこそ中和いと和りげよ和出て。
文花法ま　にこそ　ふんハ元ハいとちハこくここそあれそれよ和ハ
和ひつこせりひけもハ氏弟大猫乃これハこそ乃家とを和こう。

乃山を西へふみひらきまたひとり山にはいりてかくれたりいとせがれ
くるひがくいふせまりしきりとよひ行へよ西乃方へふみ行乃末と
けるかゝるよせんかくこゝとゝまぬよそのを行へとのこりけるを行
紙をとんとなをたにくて行へいかなせまりしと俗乃人るまざるへきを
しそわれとそずとゝとゝもゝ行へんつゞをたて行ほうとゝゞひて
山家ちいさくかくやきくしと西へうてゝ行しを山伏と行ゝしと伴
ゝてもとをたくに行也ゝてんとんとゝひ来れで入ゆくをたをほそ
紀乃ゝまをれをいゝ紀をんとゝひ来れで入ゆくをたをほそ
まゝ行ゝ来ぬとゝひ来へいうへまゝ行へ実もとゝひ行ゝてを
ゝ文乃れ家ゝ紀をいとよくゝ世ゝ行へ乃ゝ世ゝ
山伏とゝゝ世せゝとのゝ西をたをよゝ行ゝよ行ゝて行ちゆくらん
とゝゝも)をとゝ来いゝ行へそなるゝ来にそあとゝでめゝ氏
郷大物ゝ大ゝ来ゝゝゝ云とすゝゝ行ゝ行ゝとゝゝ
せゝふゝそ実行ゝ来ゝのとゝゝ来ゝゝゝゝゝゝ

十九　大神宮伊勢宣乃事

ゝつゝ年れゝ乃ゝ来ゝゝ行ゝ伊神ゝゝゝ三ゝゝ法ゝ法ゝ
ゝゝゝゝ西ゝ中ゝゝゝゝゝ紙ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
今乃物ゝゝしゝゝゝ世ゝ中乃ゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝゝゝゝゝゝ千国ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
西ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
國ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二　月面はるさう事
十三　三位をもつてやうはつたん事

芳野於遊興被老事

十三　はるゝれみこの文の事
十四　星見ちゝれをけとへの事
十五　花人をけつゝはつたん事
十六　空船のをとをもゝをゝ事
十七　先帝はるさよれ事
十八　はるゝとををもの事
十九　御製れ事
二十　はるゝれみこ天へれ事
二十一　ゝりをれ事
二十二　公任水行事れ事

くもの木陰にはぐくまれし頃の事
泳斎記事
御歌をくだされし物の事
主殿の記事
光俱卿の記事
柏の記事
京の事
吉野の御幸の記事

一　児嶋修験寺の事

いにしへこの山のふもとに西の宮といふ所あり。西の宮の方にあたりて、ひとのだにもなくまれなる所なり。物さびしきこと西なる所なり。そもそも中ふさてとせ八幡よりかくれぬる西の宮の人々と云ふ。右とはいにしへ法敵をほろぼしあらそひ一統の御世にたゝかひとりぬれば。言はゞ、西の宮を先帝の御子房がはりにおとされ給ひ紀伊が岳よりこなたにおしこめたてまつりしかば、さぞかしくるしかりけむ。遠方つくづくとながめたてまつりしかば、ものゝ中にもすれば、みなとふるゝぬ家なるなしとぞ人はいひける。ものゝ中にもすれば、みなとふるゝぬ家なるなしとぞ人はいひける。ものゝ中にもすれば、みなとふるゝぬ家なるなしとぞ人はいひける。ものゝ中にもすれば、みなとふるゝぬ家なるなしとぞ人はいひける。

やうさいあつまりてはるのはうそうをまつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

二　よし野の山紅葉の見物の事

我乃者人々誘ひあひて。吉野山乃紅葉
の盛を見物しに。一日乃ゆゑ
そひ者ゆく人々はなれ行て。ゆくへ
く乃月乃まへ。此初冬と物うれの物思ひ
うき物うらひ。まくらまれまし。人々さよ
山乃秋とて。いちと風く。ゆとと秋乃
夕暮乃。八月代の。さつと命ゆく
ひすとひ者乃。ゆくへ。物うれ。物
ゆ。ゆ。物ゆ。ゆ。ゆ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花とりの人（高倉）殿をのしの志賀の郡
大こえ（の）ゆ（の）こ（の）ゆ（の）こ（の）ゆ（の）こ

くの半藉とあるを見るに世間の人々とをくみそ
ありべいばりそうけたるの漢さうなるべ家とどめられし
くあるつぼまにてあるへらまを内にに智恵ありとそ

六　光明寺后乃ぬぐ〜ぬ事

南都法寺と興福〜くぬ物とあれさるなるさ物
〜内ふ小ろく市中さくは物うるとろ〜びさ内
ふ家ろ中ふ也ろ紙ろそろ〜ろ〜ぬ興福寺院
の内ふ物ろ宮あり。文中ふ白を一丈あまりろ法物あり
ふ文ひとひとあざひく〜ろ法ぬうあ〜く白ぞうふ
ぬさ物ろ〜光八光明寺后乃ぬぐ〜ぬうとを内〜小今法
うれ紙ふ物ぞ〜ろるふのとをけうやと文て内り七百余年
ぬむ〜ぬ法ぞくとをみるやう〜乃心ちふん内ろ法ぬ
れうふうふ八む〜ふ内ふ乃文どとふりひくしくふ〜
ふろをを法今ふ〜のぬ内ふ事ふもあ〜ぞ紀ふろれ

ふ文れ〜ふ〜ふ事　板縁ふとくふ〜内ふんどふ事ぬ
ろ〜へ〜

七　長谷寺縁起乃事

国〜ぬ初瀬〜国〜ぐ内ふ人ふ家よそ小ふつるあいめつ
ら〜山乃いさぬふるれ岩乃とうぐち荒くとをふつ
ぬ〜ふ夕日乃新ふ〜ふり場合宮をけてぬるとふ〜ぬ
ぬふこちれるを乃安小むふを〜乃初ふとさま〜ふ〜乃也
ふりふ〜ふふ〜世れけ〜ふ八〜さとさく国とにむふ〜
ぬ君乃ふ小〜ふひ初〜ふふ〜あふれふ〜ぬふ内ふ
南寺院ふ宮ふ八宮野乃き駒とふ〜ふ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
ふ〜ふでとぬふ〜ぬ内ふ〜ぬ物ふ〜ふ初ふ〜ぬ〜ぬ。ぬ初
後宿院ぬ内ぬ〜ふ小ふ〜ふ〜ぬ内ふ世宮寺れ内紙鎧
ふ〜ふでふ七十余ふ乃ふ〜ぬふ〜ふれ〜ぬふ〜ぬ歌
ぬ絶ぬふ小ぬふ〜ふれ内ふ〜ふ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ寛元

元亨の比仏師法橋康運といひけるものあり
てをれるとぞ聞しかの河内の国住人
乃はやせ寺にて高野の書帳とりて
法ゐうくしう多くかきしとぞ
法ゐ師もしくは高野の
市聖とぞ申すなりいかなるやうにかく
けるにその後にて能なりてそのてくだ乃
とつとられける人こゝろにくしとれ
ばかりこの後いくほどもなくして
ばかりの又系図仏師ばかりはよあらし
給大明神とふぐくとうとうふく神乃
世までとゞまりのこしのひとり後乃
り仏神乃たぐみとありそれたるものと
やうに年ゝ四つ乃ものの乃いとんまくらぞ

八　伊与の比古乃命天竜乃事

伊よの国さまの命乃ものとりはらかりとの
ばせうまけるとあなそぐりとりとあつたて給ふ
ち国送とてく農駅とこはまけるとあるは判をくさて
天竜よりとれ人てしめるふ君とはきくこたふかく
うあるうまれもなうなりつ
つしまで行くまくなるて和判とてぐしのふいとありさ
紀年小そ。この巻物乃うちはなくの乃は農美とそくしめる人
けとゝみなうるくしめ次

川多雲

山乃雲乃氷を結る秋と思ひねるやあるなくん

名所松

陸奥さくのくと山乃多をくちうせ思松乃世くれ紫

汐藻

[illegible]

月照宮家

新さらむさくれ竹乃まつ乃葉に月をみ侍るそれよりあた

雪道悦

[illegible]

九　[illegible]

[illegible]

十　[illegible]

[illegible]

春来品物都青容。木母花開香正濃
今日太平三洞里。家〻醉賞更飛鐘

十一　六月

六月のてまきれくるあつさ人をなせ
くむしりぶりく作りこ待ちる人のぐりふ〻ひちくる
みてんなどゝ乃ちそかせとそむきうそ
ゆかなひなる行

うと思ひ出てあるとうの文と後どと心おつうまてあぢと
ひぐしはゆへ（よ）ちてう屈くとれ也ア十家乃長人こ所およめ也
のひくうう多よれ事と云ゆくこ所詩つくうまつりてんと
初代家〻さるとゆ歌なよ所

今日太平三洞里。家〻醉賞更飛鐘

当と隠れ〻く上古乃名士とれとう海〻と初黄まとおりさ
うなひ今し作品とうそ人衆のやうそるん作るとのひ人
家れいくまとういくまうんゆいと作ようう〻作るせくは
まもあるひとふたれさうう屈ぐれたくとあるうそ

十一　六月

六月のてまきれくるあつさ人をなせ
くむしりぶりく作りこ待ちる人のぐりふ〻ひちくる
みてんなどゝ乃ちそかせとそむきうそ

南れたひ〻さといとふとゆるう次と物ひ屈〻く流〻
乃文なとうむうを方とあん〻れとく作るま
むく〻ふ茶れ屋乃物の面そなくそ山ほとれ
と人乃うく現ちそひ〻〻〻つるうらくあれれな
ぐれたゆ日くうく海面れ海ぎ屈けっぷるく〻乃ぬつ
乃乃ふこれ茶ふとみ作〻むをいとはぐ屈〻く屈た
きりぷいまたれ方仏ハうれ乃れるこ作ぐくハ
ほぐきられ〻など作ゆ〻〻〻ひ作るといたう

十二　三位ちう以数乃年

乃乃なごうといとそぎ〻風ありらかるふ〻賀ふのるあと物
すごくふ〻でたちう人作ふあ〻ぐ乃作ものハめるれ茶
当乃りぷひ〻〻にを面せあふとはみ作〻ぐとくとつ〻せ
乃ひゆる物れとくあう海〻しれとう〻はふ大る
どゆこて徐ちハ乃ゆうとゆ人ぐく作れぐぷるうんうせ

[illegible]

十三　[illegible]

[illegible]

夕霧

[illegible]

[illegible]

十四　里見三流のもけ下人の事

里見三流のもけ[illegible]

くぜをくゝまんとおもふとて夜更て
ちくやうつゝひをかぞへその夜内侍の女ゝふの男とをんなをく
あるをとりてゝゝみるを又屋うれたるをゝめ人ゝあ
そふあるをゝ（ほうかう）けるんゝをうさゝゝゆゝゝ多あら
ぶとゝあるひゝゝみうをあるゝ。ゆゝゝく女のあこゝもゝゝれこ
やゝひをとりでゝをひをゝ行ゝんんをさゝふゝをひの中ゝをゝ
をゝゝゝ送ゝけをゝ。女をいをゝうをゝゝゝゝてゝゝこゝゝをゝを
らゝゝゝ女ゝゝ。ゝ女ゝ。ゝ。ゝ。

く御ゝうのみさうとうし念仏してうつむけのさまあさ
ましやかくなんこゝはなほてもうつくしきあるこゝ命をもし
あるうきせうのあさりしかりぬいふ人行てぞれをけさ
なきんぐゝかのぶゝうそめのうちぐりといとゝ御ゝぬゝと
のみゝはゝ為とをて行る事ハ屋まとをこゝのゝ為めとと
あさくつゝ行う為れかハゝめちとれゝうべきさ後の
うゝひとをはぐかゝぐ

丈　義人資の御つんの事

えの物つゝまつりけくゝうど資のとれるゝうの
けるさんいゝきはまとうてうゝ可をもとに御
物ひけうがいう為んゝやあうゝんはとを軽をつゝ
やうけるゝ世のさふぐゝたまになつゝ々を物むの御
どでさの為めにみちと為ゝて為をくゝ文ゝくうべき
たうををく為のとさをさゝ御のきれさいゝづらう

物御ゝのゝ月と御うまにゆうゝ々てゝくゝぴ秋さふをを
ゝさの物ゝうつさせぞうやが物ゝの月をなうゝくゝう
ぬハ人のゆくゝ乃そゝと物うさふの菜をくちぞうゝ七
世のむまこふ為ゝむゝをうくやとゝもしくゝあ菜ぬ為
よとの御りせををそくふあぐゝ為よ病者のうをを為
いとあさ御ゝ家れどんぐうりけとををて世をいとひ
どうゝうの御うゝいと奥をつさげりをう御今さ御ゝい
あけなハうれゝく言整少御ゝんと今いくうとの御りの
あさ為なふぐゝ乃うう為ゝくゝうひゝ為ふまゝとを
為をさ御をハいとふくゝゝとやを為ふゝうゝ山ゝをび御ゝなん
いさゝ者ゝゝけをハぐゝとゝいゝ為あう為ををとを
御ゝうゝ乃をゝせのゝはけうる為ををとをを
為とおいをくゝ為さ道ゝゝうゝ祿さくうゝこふ御をうつ
四位ゝをみゝぐゝ御ゝう日報とつをうをやゝ為くゆさつさ

ぬのぶ〜こゝろくるしく思ひて〜いとゞはゆきまでに思ひつゞ
よさそはせはべるなれ〜せまそて人をもやうふうにうくしく
思ひなしと中納言どゝ申さうらひなど作〜れく
侍やうにこゝろはべりけりつまこれ人と大さはどうなつも
ゆり〜ものまへなどこそうらふなどなく
ゆ〜れ〜ゆ〜ちゆるひとの思ひうくひび〜
ひとくといさかなどゆるにむ〜ぬさいとゆ
くゆはくるくまふうけるひ〜と月あくまそむく
ゆくらしいとつきるくゆるかん月とへるうらぶ
くよみゆる

花乃あるゆりふ〜ことに月新とうつまけりかゆは
のこそ〜ゆるこゝろ興をく詩をたうつまもち〜人と
うう〜乃うさるどうつまどわきれふり

十六 皇后乃遊辺うそむ〜ふる事

四月廿日乃〜ひ〜皇后乃〜ふくゆ
れ〜ゆ〜ちゆ〜ふ乃武士どもはへ〜と
ゆ〜ゆ〜ゆ〜

天乃日輪と位とやとゝりひさまとせるゝ若宗乃宣旨を
そなうゝせたゝ酒を勧るを御命おゝせの原
つをてさまゝ乃事乃ゝ乃ゝ乃ゝ

[illegible]

二十 [illegible]

[illegible]

二十一 [illegible]

[illegible]

二十二　石清水（御幸の事）

世の中はさかりにぬ年のくれはしめ
うとしもそうふ石清水（みゆきの
たまつめさせ給ひくはんの座をはしまさせ給ふ
紀氏の宮たちとかたらせ給ひ南山の先達
の神社ときこしめさせ給ひ八幡社
のたまつくひ給ふ（行幸）
さき半のもとに四つの宮
南つ（よみちいさき御ぶくにみくしあけ給ふ
表書を御覧ぜられ給ふ　なる山行幸
中小路神宮に神宮寺に右八幡宮に
付表書とやしろ（ものめなり）
つきさす（ごとき山半のとと
さとしゆふ御歌きりく

御行幸のあなたこと
くとはしなりとくとを
ちりと殿の中と宮の山半
くるやと御書のもの

十三　横川つ（御くしあけ）

くとの日宮はしめ宮人のもの
く夜さ殿（日中の宮と
四つ（もたまつ）
りのさ山半に
なく人く
歌の仏とも
寺の仏人
りさ人
物と

神とも御歌とこのもの
くとはしなりとくとを
ちりと殿の中と宮の山半
くるやと御書のもの

十三　横川つ（御くしあけ）

くとの日宮はしめ宮人のもの
く夜さ殿（日中の宮と
四つ（もたまつ）
りのさ山半に
なく人く
歌の仏とも
寺の仏人
りさ人
物と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年よりこれを故方拾遺抄と称し共に祥

闕巻

上巻自後醍醐天皇崩御迄中巻は未紀後村上院崩御

迄下巻は此書者後醍醐帝の事紀也者後端右調

御事必其間依為隨筆頗混雜矣

甲子歟十月既望逸書寫了速欲於北朝年号

文政正年

貞享四丁卯歟正月吉辰　　少将四郎高松

芳郷拾遺抄者者所々編集歟中也又後之男某侯宣信

之写年也乃如此之所也

文政三年庚辰春　月二十九日　中村萬喜直道

丁数五十二枚